

和歌山での生活

梅 玲

2009年の4月、和歌山大学の研究生になるため、京都から和歌山へ転居しました。最初は生活になかなか慣れませんでした。京都では、どこへ行っても、電車や地下鉄で行けるのが、和歌山では住んでいるところの周りに電車どころか、バスさえあまりありません。もしバスで学校へ行けば、まず自転車で10分程こいでバス停にいけなければなりません。また、学校が山の上に建てられていますので、毎日坂を登らなければなりません、すごく大変です。特に夏季に教室にやっと到達した時は、滝のような汗が流れています。

しかし、今私は和歌山が好きです。1年間を経て、日本人の友達ができて、和歌山での生活がますます豊かになっています。



初めて和歌山に来て、驚いたのは紀ノ川橋から見た海です。青い海が果てしなく続いています。これから、私は毎回市内へ行けば、紀ノ川大橋を渡る時、暫く橋の上に止まって、海を楽しみます。海は何事も受け入れられてくれるので、人は海を見て、心が広がります。そして、優しい風に吹かれて、気持ちがいいです。最初和歌山での生活が苦しかったですが、時々海が見えるのが幸いと思っていました。

2009年の7月20日、和歌山市で花火大会がありました。これは私が日本に来て最初に見た花火大会です。花火大会の話を聞いて少しでも早く準備し、自転車で有利な観覧位置へ行きました。沢山人出でした。女性達が浴衣を着て、おしゃれな髪形を作って、とてもきれいでした。お母さん、お父さん達も子供を連れて、花火を見ながら、子供達が「わーわーきれいー」とわくわくしながら騒いでいました。その時、日本では珍しく賑やかだと思いました。久しぶりに花火を見て、心も暖かくなる。自分がまるで子供の頃に帰ったようです。私には懐かしい花火大会でした。今年も大会がありましたけど、バイトがあって、行けませんでした。とても残念だと思っています。また、来年はぜひ行くつもりです。

2010年3月経済大学院に合格して、私はすごく嬉しかったです。4月の初め、大学院入学



式に参加した後、友達と一緒に和歌山城へ行きました。その時、桜が咲いていて、とてもきれいでした。桜の下、人々がお弁当を食べたり、お酒を飲んだり、歌を歌ったり、写真を撮ったりして、みんな自然の懐に抱かれて楽しんでいました。私は桜が好きです。桜が一斉開花する時、春が来たと感じます。桜が咲いている時ももちろんきれいですが、私は桜散る時がもっと

好きです。花びらが風で雨のように散ってしまい、木の下に立つと、花の海みたいです。そして、散っている花びらを見て、どんな美しいものも最終に凋落するしかないことを感じて、今の生活を有意義にすべきだと考えています。

それで、和歌山に来て1年間半に学校や県内の民間機構が行ったイベントに参加したり、学校の先生や学生達やバイト店のスタッフと交流したり、自分が温泉のある場所と砂浜へ遊びに行ったりして、私は益々和歌山を理解するようになりました。和歌山弁も少し学びました。和歌山人は優しく、素朴です。和歌山での生活が京都のような大都市より快適です。何事も急がなくて、ゆっくりとした生活ができます。

今まで、大学院1年生の生活を半分過ごしました。この半年間は非常に忙しかったです。毎日授業があって、毎週レポートを書かなければなりません。レポートを確実に完成するために、いろいろな資料を収集します。この半年、図書館、研究室、家、バイト店の間に行ったり来たりします。しかし、私はこのような生活が充実だと思っています。中国の大学でレポートの作成があまり必要ありません、それで、最初私はレポートの書き方まで分かりません。この半年の勉強でレポートの書き方が把握できるようになりました。授業から学ぶ以外、どうやって自分がいろいろな書籍から知識を深めるのかということが和歌山大学でよく感じています。学校でインターネットで資料調べることができるし、図書館に書籍が一杯あるし、資料の収集にはとても便利です。時々、研究室で夜まで自習した後、友達と帰る時、キャンパスの通路にある薄暗い街灯に照らされる木立を見、昼間は騒々しいキャンパスもすごく静かだと感じます。校内の野良猫もこのような快い夜に散歩などしているでしょう。こんな優しい環境の中で、勉強しようとする気持ちがとても湧いてきます。また、来学期も来年も頑張ります。